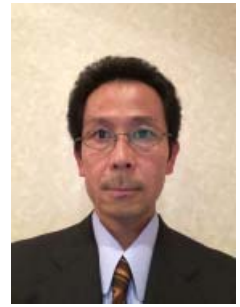


## ■ご挨拶

# 成長軌道を実現する業界を目指して

日本風力発電協会 理事 橋本龍治  
J-POWER 電源開発(株) 環境エネルギー事業部 風力事業推進室長



### はじめに

第 11 回定時社員総会にてご承認頂き、引き続き理事を務めさせていただくことになりました。微力ではありますが、JPWA の活動に貢献してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。

### FIT によって風力発電の導入は進んだか

平成 24 年の 7 月に FIT 制度が導入され、再生可能エネルギーの導入を加速する環境が整備されました。しかし、風力発電については環境アセスの法制化などもあり、現時点では必ずしも期待通りの導入状況には至っていません。

エネルギーミックスの中で、2030 年の再生可能エネルギーの導入量は電力量ベースで 22～25%、その中で風力発電は 1.7%（設備容量 1,000 万 kW）とされています。これは JWPA が Wind Vision の中で掲げる 3,600 万 kW とはかなり開きのある数字です。

また、系統接続の問題など、今後の導入拡大に不安要素となる要因も顕在化してきています。特に北日本の最近の状況は衝撃を与える内容であったと感じています。

### 再生可能エネルギーのエネルギーミックス

FIT 導入以降、開発のリードタイムの短い太陽光発電が急速に伸び、太陽光発電が突出するバランスの悪い導入状況となっています。

資源の乏しい我が国においては、エネルギーミックスの中で様々な電源がバランスよく導入されることが重要であると同様に、再生可能エネルギーにおいても各電源に様々な個性がある中で、特定のソースに偏重しないバランスのとれた導入環境を維持することは重要です。あまりにも太陽光に偏重した現状の導入バランスは修正されるべきだと感じます。その意味でも風力発電は頑張る必要があります。

### 社会に受け入れられる形になるために

FIT 導入以降、国民負担の増大が様々なところで議論される中、コスト競争力に優れる風力発電の導入が十分に進んでいないのは非常に残念なところです。一方で、風力発電においても現状のコスト水準に甘んじることなく、グリッドパリティを目指してコスト競争力の向上に向けた不断の努力を続けていくべきことは論を待たないまたないところだと思います。

また、風力発電設備で重大事故が発生していること等もあり、定期安全管理審査制度が導入されるなど、より成熟した電源へと成長していくことが社会から求められています。業界全体のレベルアップを地道に図り、社会に安心して受け入れられる電源へと成熟させていく必要があると思います。

### 今後の展開に向けて

今後、導入量を大きく拡大していく上では、洋上風力は一つのカギとなる要素と考えます。ただ、洋上風力の導入を進めるためには、日本に合った技術の確立、コスト低減、インフラの充実など、解決すべき課題も未だ多くある状況です。焦らず着実に取り組んで、日本の洋上風力導入の基盤を築く重要な時期だと思います。

また、新規開発と共に、経年化した既存施設のリプレース、リパワリングを着実に進め、持続可能な事業分野を確立することも重要です。

### おわりに

エネルギー業界は非常に大きな変化の時代の中にあり、再生可能エネルギーの行く末も時間と共にどんどんと変わっていく状況にあります。超えるべき壁も多々ありますが、風力発電は再生可能エネルギーの成長の核となり得る存在であることは間違いないので、JWPA に関わる皆様と実のある議論を重ねながら業界を盛り上げていきたいと思っております。